

子どもにとって遊びは生活のすべてです。遊ぶことは生きること。子どもは遊びを通して生きるための多くのことを学び、さまざまな力を獲得し伸ばしていきます。挑戦すること、協力すること、想像すること、つくりだすこと、ひとりで決められることなど、たくさんの楽しさを知っていきます。

近年『遊びの科学』が盛んに研究されています。子どもはそれぞれの遊びをする中で多様な経験をし、そうした体験が社会情動的スキルを含む、さまざまな力の包括的な発達を促すと考えられています。

お子さんが0~1歳の頃「どんな遊びがいいですか」とよく聞かれます。赤ちゃんの頃は養育者との愛着関係のなか、豊かな遊びで心と体が育ちます。子どもは誕生直後に満足(快)・苦痛(不快)・興味(関心)の3つの感情を持つとされています。子どもがうれしそうにする言葉や体の触れ合いなどいいですね。わらべ歌遊びもそのひとつです。

絵本「どんぐりころちゃん」。どんぐりたちがかわいく歌って踊る次世代につなげたいわらべ歌絵本。どんぐりが木から大地に降り立つと、木は葉を揺らして寒い冬や動物たちからどんぐりを隠して守るそうで、作者はその様子がまるで「子を育む親の思い」のようだと感じ、どんぐりたちの安心感を表現したそうです。

「わたしとあそんで」。わたしは いま、とびきり うれしいの。なぜって、みんなが わたしとあそんでくれるんですもの。色調も相まって、とても穏やかな気持ちになります。遊びの発達は養育者と子どもとの“愛着形成期”から始まります。そして“感覚遊び期”“模倣遊び期”その後友だちと関わりを持つ“ごっこ遊び期”“ルール遊び期”へとつながります。

子どもの遊びは生活そのもの。どのような遊びの発達があるのか、どんな楽しい遊びがあるのか、次回から絵本でいろいろな遊びを紹介していきます。

「わたしとあそんで」 マリー・ホール・エッツ 文 絵 よだじゅんいち 訳 福音館書店
「どんぐりころちゃん」 みなみじゅんこ 作 アリス館